第8号 1997.1.15	ゾーン・システム研究会会報 Photographic Society of Zone System	発行者 中島　秀雄

編集部：東京都港区西麻布４－２－１０東城ビル４０１ゾーン・システム研究会事務局

目次

我々の成しえたこと　　中島秀雄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・I
ゾーンシステム研究会と中島氏のこと　平木収・・・・・・・・・・・・・・・II
96年ゾーン・システム研究会写真展実行委員会活動報告　・・・・・・・・・・III
11月　月例会議事録　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・IV
テクニカル・アドバイス1　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・V
総会のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・VI
会員通信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・VI
編集委員からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・VI
売ります買います・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・VI

あけまして
おめでとうございます

昨年の展覧会では大変お疲れさまでした。皆様の協力によりすばらしい展覧会になり、大きな成果も得られ、研究会にとって記念すべき年になりました。

今年は、この貴重な経験から得た技をより大きなものにしていく年だと思っています。そのためには写真表現の幅を少し広げていく必要があると考え、今までの風景写真のほかに、人物や静物を対象としたとき研究会としてどんなやり方が出来るのか検討していきたいと思っています。

総会も近づいてきました、その後すぐに冬の撮影会がスタートします。準備万端、撮影会に備えてください。そして、今年も皆様と実りある年にしたいと思います。

中島秀雄

我々の成しえたこと
研究会代表　中島秀雄

研究会の大きな目標の一つである写真展は、多くの人々の交流の中で終わりました。人々が今回の写真展に何を思い、何を感じ取ってくれたのか、今はギャラリーでの語らい、一人一人の表情を思いめぐらし想像するしかありません。しかし写真を通して集い、写真を通して語り合うことの素晴らしさをこれほど強く感じたのも久しぶりのことです。写真に対する見方はそれぞれ違っていても、写真に多くの魅力的な情報が含まれていると感じる思いは同じでしょう。このことはギャラリーで話ができた多くの人々から得た実感です。誰もがシルバープリントの根元的な美しさが分かり、その美しさを求める参加した一人一人の心意気が伝わったからでしょう。

白樺の美しいコントラスト、長い時間による有機的な岩の形、植物の形態、自然が作り出す秩序にはいつも驚きです。ここに撮られた被写体のすべては、我々の力で勝手に作り替えたり、形を変えたりすることのできないものばかりです。しかし、カメラならできます。我々が成したことは、様々に点在する素材を注意深く眺め、レンズを選択し、自分なりの気持ちよさ、自分なりの秩序にしたがって見つめ直した結果で、自然と関わった一人一人の自然に対する一つの回答なのです。これらは頭の中でイメージとして捕らえる事ができたとしても、すぐに消えてしまうものなのです。誰もがイメージとしてとらえることは出来ても、写真を撮り、プリントまで立ち上げることには、様々な困難がつきものです。我々はどうかすると面倒なことや出来ない理由ばかりを考えがちです。自然と立ち向かい、自然との関わりをプリントにしてきっちり答えをださなければ、写真ですらないのです。今回の展覧会はそのことの一人一人の確認でもありました。

我々はカメラを理解し、写真素材を十分研究したとして被写体に向かったはずです。しかし実際には多くの誤解やミスによってひどくがっかりもし、貴重な時間や労力を無駄にしてしまったこともあります。これは様々な光や被写体に立ち向かう経験不足と、被写体をよく見ているつもりでも実際はよく見ていないことに多くの原因があるようです。『カメラが見るように被写体を見なくてはいけない』アダムスはこんなことをいっています。我々は被写体を見つめることにいまだに多くの問題を残しているようです。

我々にとって暗室ワークがとても重要なことは、以前からわかっていました。そのことを今回のエディション

プリントは改めて我々に気づかせてくれました。ファインプリントは一枚なら偶然に出来るときもあるでしょう。しかしなぜうまくいったのかその理由を無視して5枚ものファインプリントを作ることは出来ません。２０～３０枚とプリントする創造行為の中から美的な理由を一つ一つ見つけだし、方法を考え、検証し、統合してはじめてエディションプリントは成立するのです。そして、自らが成してきた創造行為の責任としてサインがいれられるのです。制作途中のミスやある程度の保存にもしプリントが耐えられないとしたらこのサインは何の意味もなくなります。また「ネガがあれば同じものが何枚でも出来る」という写真の定説を身を持って体験したことになるし、そう簡単ではないこともわかりました。

電子メディアが新しいコミュニケーションの手段として出現し、今まで想像もできなかった情報交流や表現の中に出現してきています。おそらく家族写真はデジタル写真にとってかわり、家庭のＴＶで再生してみるようになり、プリントアウトも好みの色補正やトリミングまで自由に出来て、専門のカラープリンターにしか出来なかったことがいとも簡単にできるようになっていくでしょう。その上写真に大量に使われ、環境問題として未解決の化学薬品も少しづつ減っていくと考えれば、プラスの面は大きいかもしれません。しかし、新しいメディアが出現したからといって何をどう表現したいかといった我々の根元的な問題がかたずくわけではないのです。このことの方が大きな問題です。素材を見つけ、自らのテーマに深くかかわり追求していく姿勢は変わらないでしょう。白黒写真が今新鮮に見えると誰かが言っていました、僕もそう思います。それは一見激しく膨張しつつあるように見える電子メディアが表現の自由や多様性、そしてスピードを求めて登場してはみたもも、なにかいかがわしさを肌で感じとっているからなのか。

１９世紀に写真が誕生したとき、様々な混乱の中で絵描き達は写真を呪い、廃業したり、また写真に転向したりもしました。しかし絵画の魅力を写真では越えられないと感じていた真の絵描き達は、そんな混乱には惜せず、ひたすら自己の目的を貫き通し、そこから印象派のすばらしい絵が生まれてきました。今、写真がその時代とダブって見えます。

今回の展覧会は、これまで研究会が撮影会や講評会などの活動を通して出てきた研究会の理念を、初めて提示するための大事な展覧会だと思っていました、そして結果としては大きな一歩だったと思っています。

「ゾーン・システム研究会と中島氏のこと」

－写真展の寄稿より－

平木　収

写真評論家　元川崎市市民ミュージアム学芸員

写真家アンセル・アダムスが「ゾーン・システム」を考案したのは、より多くの人々が美しいモノクローム写真を制作できるようにと願ったからである。

彼は写真の喜びを享受する人びとの輪の広がりを想いつつ、一方で写真美学理想の結晶をも念じていた。その想いは、ひとりの日本の写真家にも伝わった。中島秀雄氏である。

中島氏は自らの制作に「ゾーン・システム」を取り入れ、またその技術の普及にも努めてきた。そんな中島氏に１０年ほど前、彼の個展会場で会い、翌年、川崎の市民ミュージアムのワークショップに、講師として来てもらった。その講座は今日も続いている。

ここに展示されている作品の作者たちは、その講座受講生が母体となるグループの人たちである。

かつてアダムスが願った広がりと結晶、ふたつの理想の具体化がここにある。

また参加メンバーは、この高度な写真術のおかげで、世界への視野を広げ、美意識の結晶を目指して制作を続けている。

アンセル・アダムスがこの写真展を見たら、さぞ喜ぶことだろう。

９６年ゾーン・システム研究会写真展実行委員会活動報告

実行委員　荒井　崇

本実行委員会は、写真展の準備のために結成されたもので、メンバーは中島先生、諸見里氏、吉野氏、山本氏、内田氏、篠原氏、石原氏、植村氏、荒井の9 人です。以下、今回の活動内容を報告します。

(1) 7月20日（土）16:00より 武蔵小杉ホテルエルシー
この日は第1 回の集まりなので、まず担当を決定。（広報：石原、企画書：植村、会計：内田、書記：荒井）その後、企画書内容、予算、写真展タイトル、フレーム、はがき等の大筋を話し合いました。

(2) 8月1日（木）19:00より 武蔵小杉ホテルエルシー
広報活動に使用する企画書案（植村氏作成）を吟味し、最終案を作成。また、石原氏による案内はがきとフレームの見積もりの報告があり、次回までにフレームサンプルを用意してもらうことになりました。

(3) 8月10日（土）13:00より ランドマークタワー
この日は会員のメンバーにも集まってもらい、予算、タイトル、作品の選択方法、日程等について会員の方に報告致しました。

(4) 8月31日（土）13:00より 武蔵小杉ホテルエルシー
作品のイメージサイズ、サイン／エディションの入れ方等を決定。またフレームは国産のものは外観があまりよくないので、ＵＳＡのライトインプレッションから輸入することになりました。そして今回は、各雑誌に案内を掲載してもらうための原稿と写真を準備し、各々雑誌や新聞の担当を決めて直接持ち込むことにしました。

(5) 9月14日（土）13:00より ランドマークタワー
出展する作品も決定し、この日は出展者1 人1 人に対して、中島先生からのアドバイスがあり、作品は10/5までに完成させることになりました。また、会合の最後に、諸見里氏によるブックマット作成のデモを行いました。

(6) 10月10日（土）19:00より 武蔵小杉ホテルエルシー
会場配布／展示用書類作成の内容決定を決定。また案内はがきの住所書き分担を行いました。ギャラリーやメーカー、雑誌社等へ出すはがきは約1,000枚で、実行委員一人当たり約100枚程度となりました。

(7) 10月12日（土）9:00より 新宿御苑アイデックス
中島先生、実行委員の一部、有志の方々でスポッティング作業が行われました。

(8) 10月13日（日）9:30より ランドマークタワー
この日は、中島先生、実行委員、有志の方々でブックマット及び額装作業が行われました。今回は予算を削減するため、梱包箱の組み立てを自分たちで行うことになっていてため大変な作業となりました。更に、規定した作品のイメージサイズにもばらつきがあり、ブックマット作業も予想より時間がかかり、予約していた時間内に終わることができず、先生及び一部の方が吉野氏自宅に集まって、何と夜の12:00までかけて作業を終了しました。

(9) 10月20日（日）9:00より 吉野氏宅
先週仕上げた額装の最終チェックを行っておおまかな会場レイアウトを検討しました。

(10) 10月28日（月）9:00より ギャラリーオリーブ
いよいよ搬入です。中島先生、及び有志の方々に集まってもらい、会場準備にかかりました。決めておいたレイアウトで作品が収まりきれず、オリーブの方にアドバイスをいただきながら何とか体裁よくレイアウトを完了しました。午後はオープニングパーティーの準備を行って、無事写真展の開催にこぎつけました。

(11) 11月3日（日）18:00より ギャラリーオリーブ
7 日間の写真展もいよいよ最終日です。大変盛況のうちに終えることができ、大成功であった。と先生のお言葉がありました。撤出は写真をかたづけて諸見里氏の車へ運ぶだけでしたので短時間で終えることができました。

短い4ヶ月間でしたが、写真展の準備がこんなに大変なものとは思いませんでした。実行委員会を盛り立てていただき、個人的にも大変な時間を割いて御尽力いただいた中島先生に、実行委員会より感謝の意を表したいと思います。

－以上－

11月　月例会議事録

編集委員　石原　眞澄

・1996年11月23日（金）　1：00ＰＭより
・於：横浜ランドタワー13Ｆ（フォーラムよこはま）
・参加者　２４名（中島先生含む）

今月の月例会は、１０月８日～１１月３日まで代官山のギャラリー・オリーブで開催された研究会第一回写真展の反省会として、さまざまな意見の交換が行われました。

はじめに中島先生より、展覧会の終了について次のようにご挨拶をいただきました。「一週間で４００人を越える大勢の方々に御覧になって頂いたということは、初めての写真展として、すばらしい結果だと思う。多くの人々から、プリントのクオリティの高さ、ゾーン・システムへの興味、研究会への関心など、さまざまな反応を得ることもでき、総合して成功したといえる。今後は、研究会の意味・役割・運営などについても、より責任が必要となる。そしてなによりも写真をもっと写すことが大切だ。」中島先生には、細部にわたり一方ならないお世話になり、会員一同心より感謝いたしております。ありがとうございました。

次に、写真展実行委員会より写真展を終えて、会計、反省及び今後、改善が望ましい事項について報告がありました。「会計の収支は当初の計画予算でほぼ収まる見込み。総会時に報告書を提出予定。反省点としては、初めての写真展ということもあり段取りや手際が悪く、日程が詰まっていき、思うように作業がはかどらなかった。プリントまでが作業だと思いがちだが、先生の作品に対する思い入れ（アーカイバル仕上げ等）を重視し、マット・フレーム・バックボード・ガラス・梱包箱に至るまで、何度も打ち合わせ、見本を取り寄せたり、手分けして価格を調べていくうちに、研究会の望む仕上げを外注に出せば一人の負担が相当にかさむことが分かり、「額装までが作品創り」という先生の考えもあり、すべてを手作りにすることになった。スポッティング、ブックマット、額装、梱包箱作りと、出展者に参加を募って作業を進めたが、思うように運ばず先生を含む実行委員の数名が夜中まで作業をすることになった。

これらの経験により、今後の写真展の維持、発展のために会の運営を考え直す必要があると感じた。改善策として、プリントまでで終わるのではなく額装までで完成と考え、スポッティング・ブックマットを各々が出来れば、一部の会員への偏った負担が改善できる。それらの作業については、額装までを含めた勉強会を月例会で行っていく方向性などが考えられる。それに伴い、年度計画を立てて予算を考えていきたい。

いずれにしても、「今後会員数が増えて会自体が大きくなっていく可能性を考えると、作業の配分化、システム化は避けられないだろう。」などの提案も出されました。現場の生の声として、今後の写真展開催時の実行委員になられる方のためにも皆様の広いご理解が支えとなることでしょう。

写真展について、出席の会員の方々にそれぞれに反省、ご意見などを伺いました。
「人に見せるために作り上げるプリントの大変さ、大切さが分かり、勉強になった。」「次の写真展に向かっていく意欲が湧いた。」「苦労してやって良かった。毎年やってほしい。『売る』という形も良かった。」「プリントが素晴らしかった。」などなど。

反省点としては、「あまり手伝えなかった。」「会場が狭かった。」「プリントサイズはこれでいいのか。」「技術の差があっても、一人一点で全員参加はどうか。」「自分たちで手作りのために作業に参加してどうして会費を払わなければならないのか（月例会を作業の日に当てたため）」「一部の会員に作業が偏らぬためには、外注に出せば解決出来るのではないか」「月例会はあくまでも会員の親睦をはかるためにあるのでは」など、写真展の反省にとどまらず会のあり方にまで話が及んだ。

議論の進む中、中島先生のご提案により、次回の写真展についての賛否を挙手にて出席会員に確認。出席者は全員一致で次回の写真展開催を希望。これにより、来期のスケジュールに写真展が組み込まれる可能性は高くなったので、提案されたいくつかの問題について、中島先生より簡単に回答をいただきました。

・会場について
　「広さも含めて、会の主旨にあったレベルのギャラリー選びをしていく必要がある。」
・プリントサイズについて
　「大四ツでは小さいのではないかという意見がありましたが、半切となると今回のプリントの何倍も難しくなるので、このサイズが適当なのではないか。」
・一人一点、全員参加の方が良いのではないか
　「今回もその方向性で進めていったが作品の提出率が悪く、個人的に連絡をとったが、ダメだった。グループ展なので、あるレベルまでは必要なので頑張って這い上がってきて欲しい。」

加えて、「ゾーン・システム研究会としては、撮り方→現像→プリント→見せ方まで含めてが作品創りなので、フィニッシュ・ワークは避けて通れないこと。一人一人が創る歓びを感じて欲しい。」ということでした。

最後に来期の活動、運営についての提案が次のようにありました。「月例会のあり方」（月々のテーマを決めたらどうか）、「撮影会の予定」（担当を決めて一泊二日で年２回位はどうか）、「会報の編集」（どのように発行していくか）、「先生への謝礼」（今後、どのような形にしたほうがいいのか）をはじめとして、これらの活動費の予算をどう立てていくかなど、あらためて見直していく必要があるのではないかという意見がでました。

その中で、研究会の大きな目的とは、会員の交流、情報交換、技術向上、広報活動などであることが確認され、それに伴う「事務局」の必要性と活動についても、あわせて現役員の方々に話し合って頂き、来る総会において来期の方向性を決定していくことになりました。

－以上－

新連載 ゾーン・システム テクニカル・アドバイス・・1

年が明けて、すでに新たなテーマにもとずいて撮影している会員もいることと思います。研究会にとって今年は昨年にも増して大事な年です。そこで、今まで会員の写真や撮影会で気がついたことを含めて研究会会報で述べていきたいと思います。

ゾーン・システムがすでに自分自身のものになり、何の問題も無い人もいれば、曖昧なままにずるずるとやっている人もいるようです。誰もが美しい写真が撮れるとして生まれたこのゾーン・システムを自分のものにするには、以下のことが絶対必要なのです。曖昧だと感じている会員はここからまず検討してみてください。

1．フィルムの感度
2．標準現像時間
3．プルーフ・プリント

１．２．は絶対的なもので、いわゆる光を写真的にコントロールするためのＩＤカードだと考えます。他人に貸すことも出来ないし、かってに作ることも出来ません。しかし、一定の基準にしたがって、一度作れば済みます。

写真講座に参加してだいぶ日が経っている人、フィルムや現像方法が変わってしまった人は是非一度チェックすることを勧めます。以下の手順にしたがって進めてください。

１．１８％グレーカードをブルーフラッドランプで照明する
２．カメラをフレームいっぱいになるように近づけ、ピントは無限遠にする
３．メーターで計り、出た値をゾーンＩにあわせる
４．プラス、マイナス半絞りの変化で５～６カット撮影する（感度の変化）
５．未露光のフィルムも含めて、正確に現像処理し自然乾燥する
６．デンシトメーターで測定し、ベース濃度＋カブリ濃度＋０．１を求める

標準現像時間とプルーフ・プリントは次号

ネガと返信用封筒を入れて以下に送る（今年から会員に限り濃度測定は無料です）

中島秀雄

総会のご案内

第3 期総会 平成9 年2 月9 日 （日）開催

日時：平成９年２月９日（日） 午後１:00（開場）～
出欠確認のため午後１:00にご入場ください。
場所：フォーラムよこはま（ランドマークタワー１３階）会議室２．３
横浜市西区みなとみらい２－２－１－１ランドマークタワー１３階
電話 ０４５－２２４－１１３３代表

※当日は写真評論家、平木収氏による「エドワード・ウエストンの写真について」の 講演があります。

※新年会：総会終了後、午後５:30より新年会を行います。是非ご出席ください。
※詳しい内容については後日、総会資料といっしょに送付いたします。

会員通信

当研究会会員の荻谷敦氏による個展が開催されます。

「サウジアラビア・自然・歴史そして人々」

1997年1月16日（木）～1月21日（火）
ドイフォトプラザ渋谷
10：00～19：00
最終日17：00

このコーナーでは、会員相互のコミュニケーションに役立てたいと思っています。
写真展や、撮影情報はもちろんのこと、結婚した・子供ができた・孫ができた、といった気軽な情報もお寄せください。

月例会のお知らせ

篠原

第一回：２月８日（土） 午後１:00～５:00
日時：毎月第二土曜日に行います（原則）
場所：フォーラムよこはま交流ラウンジ

告知

退会者：横田栄一さん

※会報編集委員からのお知らせ

いままで、井口さんお一人が会報を作って来ましたが、今回から荒井、田子、内田、植村、石原、篠原の６人が加わり、計７人の体制になりました。

ますます、読み応えのある会報作りを行いたいと思います。よろしくお願いします。

売ります・買いますコーナー

４×５ ＴＸ フイルム 一箱２５枚入り
有効期限97年９月
￥1,500 ５箱有ります

引伸機・LPL System7700PRO ６×７まで
レンズ 50,80,135mm 一式 ￥29,000

中島 秀雄
TEL/FAX 044-954-2717

４×５ウッドフィールドカメラ（ハセミ４５ＦＴ）
フレンネル・グリッド入りピントグラス

Ｎｉｋｏｎ １３５ mmF5.6 コパル0 番付き
三脚アダプターキット一式

程度：すべて中の上

上記まとめて ￥60,000

内田 順

シュナイダー、テレ・クスナーレンズ
３６ cm Ｆ５．５ リンホフボード付き
イメージサークル２３０ mm

購入時定価 ￥260,000 を ￥100,000 で

ハッセルブラッド
ＰＣＰ８０プロジェクター（６×６判用）
購入時定価 ￥686,500 を ￥200,000 で
内訳
１）プロジェクター本体
２）Ｐプラナー 150mm F3.5
３）ロータリースライドマガジン ＰＣＰ８０
４）リモートケーブル コントロールユニット
５）保護カバー

赤羽 章司